



**•Tackle Guide**  
各メーカーから出ているフグ専用竿は、外房（常磐）用と東京湾用の2タイプがある。25号オモリを使う大原エリアでは、胴がしっかりした外房（常磐）用のフグ竿を選ぼう。東京湾用の竿は大原で使うには軟らかすぎるので注意したい。

**当日のフグ仕掛け**  
竿全長1.5m 9:1調子フグ竿  
先糸フロロカボン4号  
1.5m  
SFソフト接続  
カットウオモリ25号  
12cm  
25cm  
ハリス10号  
リール小型両軸  
カットウバリ=Mサイズ

茨城の一部船宿ではエサをエビに切り替えて対応していたが、利永丸では今シーズン分のアオヤギ確保の目処はついていない。アオヤギエサのほうアタリが分かりやすく、外海のフグ釣りには適していると思う。

開始早々2人の竿が曲がった。まだ薄暗い中、25センチほどのショウサイフグが抜き上げられた。「型を見ましたよ」と船長のアナウンスに各自のシャクリにも気合が入るが、その後が



▲外房大原のフグは良型主体で好発進

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!  
これから楽しみ!

# 釣りどきレポート

Best Season Report

日中はまだまだ蒸し暑い日もありますが、朝夕は涼しい日が増えました。寒暖の差が大きくなるため雨具と「もう一枚」ウェアを持参しましょうね。

「去年とは違うなあ、今年はフグいないのか?」と不安の声も漏れてきた。しかし7時を回ったところ、大原沖15メートルダチでいい群れに当たり、何人かの竿が同時に曲がって次つぎとフグが抜き上げられる。

対して根掛かりがある場所では、仕掛けを底から1メートルほど切って、宙層でシャクリを繰り返すようにする。根掛かりの有無については、移動後の投入時に船長がアナウンスするので聞き逃さないようにしよう。

「フグが食ってきたよ。空合わせを入れて!」と船長のアナウンスにも力が入る。サイズもアップし、30センチオーバーの良型フグも顔を出し始めた。



▲初日は大原〜太東沖の水深12〜26メートル前後を探った

**船宿information**  
外房大原港  
**利永丸**  
☎0470-62-4601  
(詳細は巻末の情報欄参照)  
▶料金=ショウサイフグ乗合一人1万円 (エサ別、水付き)  
▶備考=予約乗合、3時40分集合。午後一ツテンヤマダイへも出船

中井 春樹船長

この場所は根掛かりがないので前方に軽く仕掛けをキャストし、オモリを底に着けたままゼロテンションでアタリを待つ。5秒ほど待ってもアタリがなければ、竿先を30センチほどシャクリ上げてから、またゆっくりと底まで落とす。これは空合わせを兼ねた誘いだ。

水温が下がって浅場に小型の群れが固まってくれば規定の80尾に届く数釣りも期待できるし、根周りではヒガンフグやトラフグも交じってにぎやかな釣りが楽しめるはずだ。初日は不発だった太東沖26メートルダチの深場ポイント

「去年の解禁日は大型がけっこう釣れたなあ」という常連さんたちの会話からも解禁日独特の高揚感が伝わる。出船時はまだ空は暗いが、ポイントに向かううち徐々に白み始めた。

「去年の解禁日は大型がけっこう釣れたなあ」という常連さんたちの会話からも解禁日独特の高揚感が伝わる。出船時はまだ空は暗いが、ポイントに向かううち徐々に白み始めた。

この日の釣果はショウサイフグが一人5〜22尾、私も14尾を釣り上げた。良型も多数交じり、初日としてはまずまずの釣果だろう。

解禁、それは釣り人にとってキラワードではないだろうか? しばらくの間手つかずになっていたポイントに仕掛けを下ろす、初心な魚たちがこぞってエサを追いかける、足元のバケツは魚でいっぱい...! そんな甘い想像を抱いて釣り場へ向かうのは解禁初日の楽しみだ。

**知得! Tips and Tricks**  
エサの付け替えタイミングは?  
群れが濃いつきには、アオヤギのワタもベロもまんべんなくかじられるが、アタリが少ないときはワタの部分だけを食べられてしまうことが多い。何尾か釣っているうちにハリに付いているのがベロだけになってしまうことがあるが、こうなるとアタリが遠くなってしまふ。この場合は、新しいアオヤギを追加し、常にワタが付いている状態を保とう。ワタがあるかのチェックは、とくに食い渋り時には有効だ。

▲アオヤギエサはワタが肝心

## 外房大原港発! 大原〜太東沖 今シーズンは良型主体の幕開け 大原のショウサイフグ解禁!

フッキングライター/伊井泰洋 Yoshitomo Ii